

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業 事後評価の実施方法について

令和7年10月31日
科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業
事後評価委員会

事後評価の目的及び全体像

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業(以下、「SciREX事業」という)の達成状況を評価することで、今後の取組の方向性の検討に資することを目的とし、本事業における以下3つのプログラムの評価を行う。

- ① 基盤的研究・人材育成拠点(実施主体:各拠点大学及び政策研究大学院大学科学技術イノベーション政策研究センター(SciREXセンター))
- ② 公募型研究開発(実施主体:科学技術振興機構社会技術研究開発センター(RISTEX))
- ③ データ・情報基盤(実施主体:科学技術・学術政策研究所(NISTEP))

また、①の中で行われている共進化実現プログラムについては、「科学技術イノベーション政策のための科学」の深化と「政策形成プロセス」の深化を加速させるためのものであることから、別途プログラム評価を行う。

なお、事後評価においては、各拠点等に優劣をつけるような評価は行わず、文部科学省における客観的根拠(エビデンス)を活用した科学技術・イノベーション政策形成を今後さらに推進していくため、文部科学省をはじめとする関係機関の活動の継続・発展に資する知見を得られるよう、多角的な視点から評価する。

基本方針に基づいたプログラムごとの取組の評価

「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業(SciREX事業)基本方針(令和3年8月30日 科学技術・学術政策局長決定)」(以下、「基本方針」という)では以下の通り、人材育成、研究・基盤、共進化、ネットワーキングが事業の具体的な目標として位置づけられている。

【人材育成】

科学技術・イノベーション政策における「政策のための科学」に関わる研究者や行政官をはじめとする現実の政策形成ができる人材及びこれらをつなぐことのできる人材の創出と、これらの人材の活躍

【研究・基盤】

「科学技術イノベーション政策のための科学」という新たな学際的領域の発展・深化と、それを支えるデータや研究成果、知見の蓄積

【共進化】

行政官をはじめとする政策担当者と研究者が一体となって研究や政策形成を実施

【ネットワーキング】

研究者、行政官をはじめとする政策担当者、これらをつなぐ者による持続的なネットワークの構築とコミュニティの拡大

各拠点等の活動が基本方針に基づいて行われたか、これら4つの目標ごとに評価を行う。

1. 基盤的研究・人材育成拠点

(1) 各拠点等の自己評価

基盤的研究・人材育成拠点の自己評価については、別紙1及び別紙2の様式を使用する。なお、基盤的研究・人材育成拠点は、本事業終了後も、各拠点を構成する大学において自立的に拠点を運営・維持していくことが事業開始当初から求められていたため、事業終了後の自立化の見込みについても自己評価する。

評価項目と評価の観点については以下の通り。

1) 事業の概要

- 第2期中間評価の結果を踏まえ、妥当な対応がなされているか。

2) 事業の実施状況

基本方針の目標について、①及び②の項目を評価する。

①目標と運営・活動状況

- 基本方針の4つの目標の達成に向け、基本方針、各拠点において策定した中期計画等を踏まえた運営・活動がなされているか。
- 中核的拠点機能の中心的役割を担う機関として進めてきた事業のネットワーク形成や研究活動がなされているか。(SciREX センターのみ)
- 中期計画の目標等に記載していない新たな課題を把握し、それらに適切に対応がなされているか。

②目標の達成状況、成果と課題

基本方針の4つの目標における、成果、課題、今後の具体的な取組について

- 成果は十分か。また、特に重要な成果と考えられるものについて、達成することができた成功要因の分析は十分なされているか。
- 達成された成果についても残された課題があれば十分に分析されているか。重要性は高いものの狙い通りの成果が達成できなかつた取組についても、その要因や課題についての分析は十分なされているか。
- 事業終了後、成果を拡大してくために必要となる今後の具体的な取組は十分検討されているか。狙い通りの成果が達成できなかつたものについても、継続的な取組が求められるものに関しては、改善方法も含めて今後の具体的な取組が検討されているか。

中核的拠点としての目標等の成果、課題、今後の具体的な取組について
(SciREX センターのみ)

- 成果は十分か。また、特に重要な成果と考えられるものについて、達成することができた成功要因の分析は十分なされているか。
- 達成された成果についても残された課題があれば十分に分析されているか。重要性は高いものの狙い通りの成果が達成できなかつた取組についても、その要因や課題についての分析は十分なされているか。
- 事業終了後、成果を拡大してくために必要となる今後の具体的な取組は十分検討されているか。狙い通りの成果が達成できなかつたものについても、継続的な取組が求められるものに関しては、改善方法も含めて今後の具体的な取組が検討されているか。

目標等に記載していない新たな課題に対する取組における成果、課題、今後の具体的な取組について

- 成果は十分か。また、特に重要な成果と考えられるものについて、達成することができた成功要因の分析は十分なされているか。
- 達成された成果についても残された課題があれば十分に分析されているか。重要性は高いものの狙い通りの成果が達成できなかつた取組についても、その要因や課題についての分析は十分なされているか。
- 事業終了後、成果を拡大してくために必要となる今後の具体的な取組は十分検討されているか。狙い通りの成果が達成できなかつたものについても、継続的な取組が求められるものに関しては、改善方法も含めて今後の具体的な取組が検討されているか。

3) 総括的な自己評価

- 2) 事業の実施状況の自己評価を踏まえ、拠点全体としての成果は良いものとなっているか。
- 基本方針の4つの目標ごと、及びこれらの取組を総合して、拠点全体としての成果は良いものとなっているか。また、社会情勢や政策動向、技術的・学術的な変化等も十分踏まえたものとなっているか。

4) 事業終了後の自立化に向けた展望

- 事業終了後の自立化に向けた取組・準備状況、残された課題を検討できているか。

(2) 事後評価委員による外部評価

事後評価委員による基盤的研究・人材育成拠点の外部評価については、別紙3の評価様式を使用し、拠点による自己評価結果を基に評価する。その際、エビデンスを活用した科学技術・イノベーション政策形成のさらなる推進に向けた今後の活用に資するかどうかという観点から評価を行う。

2. 公募型研究開発プログラム及びデータ・情報基盤の整備

上記2つのプログラムについては、実施主体である RISTEX 及び NISTEP においてそれぞれ自己評価を行い、その結果を本委員会において報告する。

3. 共進化実現プログラムのプログラム評価

共進化実現プログラムは、「科学技術イノベーション政策のための科学」の深化と「政策形成プロセス」の深化を加速させるためのものであることから、拠点における評価に加え、別途プログラム評価を行い、効果的な政策立案の在り方の検討に活用する。

プログラム評価は、好事例を中心に抽出し、共進化に適した課題設定や研究の進め方等、行政官と研究者の今後の協働の在り方について深掘りする。

事業全体の総合的な評価

SciREX 事業の各プログラムの評価の総括を踏まえ、事業全体の総合評価を行うとともに、エビデンスを活用した科学技術・イノベーション政策形成のさらなる推進に向けた今後の取組の方向性についての助言を文部科学省に対して行う。